

小田原北条×小弓公方、里見、2度の「国府台合戦」古戦場を歩く

城を歩く会3月定例会 資料②

平成21-3-18 山岸弘明

江戸川を行き来する渡し舟

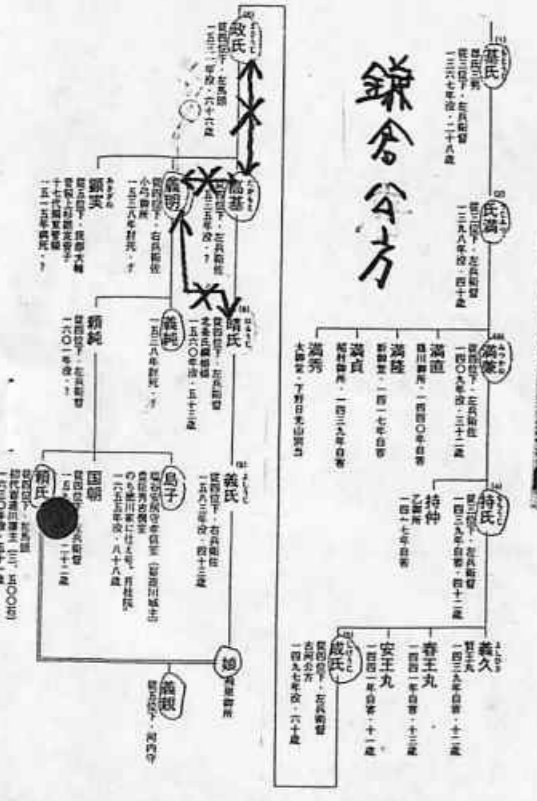
矢切の渡し

観光客を乗せてこぎ出す渡し舟。後方は葛飾区柴又

◇矢切の渡し(松戸市)
同市矢切と東京都葛飾区柴又間の江戸川を行き来する。江戸時代初期、農民が関所を通らず江戸と往来したことに始まり、現在は柴又帝釈天への参拝・観光などに利用され、映画「男はつらいよ」や歌謡曲の世界でもおなじみ。片道中学生以上100円、小学生以下50円。年末年始と3月中旬から11月末まで毎日運行。それ以外の期間は土、日曜、祝日、帝釈天の縁日のみ。午前10時ごろから午後5時ごろまで(悪天候の日は休業)。北総開発鉄道・矢切

千葉

柴又帝釈天への参拝
歌謡曲でもおなじみ



国府台城跡↑足利基氏↓国府台の戦い



↑足利基氏館



柴又駅

→ 帝釈天



国府台城、矢切史跡、「矢切の渡し」で柴又へ ———— もう戦いはこれきりに、地名「矢切」に込めた庶民の祈り

- 0) 「国府台」は下総国府の台地 — プロローグは地名のいわれから
 - ①市川=国がの市場、一川には大きい川、広い川などの意もある
 - ②真間=ママはガケ、真間山のガケ下を旧利根川(現江戸川)入り江が迂回した
 - ③国府台=国府の台地、大化の改新後和洋女子大付近に下総の国府が置かれたとされる
 - ④矢切=国府台の戦い古戦場、弓矢の戦いはこれきりになど庶民の嘆きが聞こえる
 - ⑤葛飾=武蔵野に続く広い原野で葛が深く生い茂った
 - ⑥柴又=はじめ島俣、むかし入り江で島が点在したという

- 1) つばみか開花か、一足早いお花見を期待? — 桜の名所の里見公園(昼食)
 - ①市川駅から松戸駅行きバス乗車「和洋女子大前」降車、国府跡、砲兵連隊跡、陸軍病院(現国立病院)を大森会長担当、11時半ころ「里見公園」到着。
 - ②里見公園=江戸川河岸段丘の市民公園。国府台城跡、陸軍省用地跡を市民の憩いの場に開放。面積8ha。芝生広場を中心に染井吉野240、里桜20本が植樹されている。
 - (1)ことしの桜前線、開花予想は早い、運よく一足早い「お花見」となるか。お花見気分を持参のお弁当を楽しみましょう
 - (2)この地は後出「国府台城址」、2度にわたる「国府台合戦古戦場」でもある。公園名は後付け。「里見軍戦死者群亡」に由来している

- 2) 「道灌伝説」にはじまる — 「国府台城」の歴史
 - ①前身は太田道灌陣城伝説から。室町足利幕府の出先機関であった鎌倉府(鎌倉公方=関東の幕府)の内紛で、永享11年(1439)から関東は戦国時代に突入する。
 - (1)はじめ幕府と鎌倉府が対立、のち幕府に接近する関東管領上杉家と鎌倉府が争い、永享の乱、享徳の乱が起こる
 - (2)鎌倉公方4代足利持氏の子成氏が古河に逃れ「古河公方」を名乗ると、將軍義政も弟

- 政知(堀越公方)を派遣するが鎌倉にも入れない。さらに上杉家も分裂、守護や地頭も両陣に分かれ、各地で一族兄弟が敵対する骨肉の争いも。その勢力範囲はおおむね東関東を古河方が西関東は管領方が抑えた
- (3)教科書は応仁の乱(1467)から戦国時代だが関東は30年も前から
- ② 文明10年(1478)足利幕府側扇谷上杉方の重臣・太田道灌は、同じく関東騒乱で分裂した千葉宗家自胤を助け敵対する古河公方側千葉孝胤と戦うため、国府台城に陣城を築いたという。
 - (1)これより先、千葉自胤の居城「市川城」とする説もある
本会では2年前の「市川城と船橋宿を歩く」で「弘法寺境内」説を検証した
 - ③ 永正年間(1518ころ)古河公方の弟の義明も反旗を翻す。関東の騒乱に付けいったのが後北条だった。堀越公方を滅ぼし両上杉家を圧迫して、関東管領の上杉憲政を越後に追放した。政略結婚で古河公方に接近、関東の大半を手中に収める。
 - (1)北条氏は新参者のため関東経営での気遣いをおこたらない。伊勢姓を鎌倉幕府の旧執権「北条」に改めたのを始め、支配下に置いた諸将の自治権は尊重したが、強い統率力で関東統一をすすめた。
 - ④ はじめ「国府台城」は「境い目の城」で「争奪の場」であったが
後出第2次国府台合戦後の「国府台城」は小田原北条氏支城の番城となった
 - (1)後北条氏は豊臣秀吉の「小田原征伐」で滅亡、国府台城は徳川家康江戸入府ののち江戸俯瞰の地として廃城(廃城時代に異説がある)
 - (2)江戸時代中期に徳川幕府の命で関宿から総寧寺が移転、城址全域が寺領か
 - (3)明治維新の戦い=慶応4年、江戸開城に不満の陸軍奉行大鳥圭介ら2千が国府台に集結。松戸、市川、船橋で官軍と激突したが敗走、市川宿の大半を焼失した
 - (4)維新後「里見八景園」(遊園地)、陸軍軍用地、市民公園へと変遷した

4月の定例会=4月17日 飛鳥山王子方面の3城を歩く、5月の定例会=5月19日 南関東3城を日帰リバスで訪ねる(俣曲城・忍城・蓮井城)

3) 最初の戦い=小田原北条×小弓公方決戦の地 —— 第1次国府台合戦

- ① 天文7年(1538)小田原北条氏綱と小弓公方足利義明、里見義堯(よしたか)の戦い
- ② 足利義明(1487?~1537)=鎌倉府6代古河公方2代政氏2男。兄高基と対立、上総武田氏に迎えられ「小弓公方」を名乗る。義明は上総、安房と下総の大半を領有、兄と同盟を結んだ小田原北条氏に決戦をいどむ。
 - (1)義明は里見義堯、真里谷信隆らの房総諸将1万を率いて国府台城に着陣、北条氏も氏綱、氏康以下2万の兵を進め、江戸川(旧利根川)を挟んで対峙した。
 - (2)氏綱は国府台の敵前強行突破にみせかけた上、こっそり本隊を上流の松戸相模台に迂回させ、一気に江戸川を押し渡って相模台の義明前線基地を急襲した。
 - (3)義明軍は矢切に迎え打ち、両軍が激突、はじめ義明方が優勢だったが人数に勝る北条軍が盛り返し、劣勢に転じた義明はわずかな供を従えて敵陣に突入、三浦城代の桜井神助が強弓で鎧を貫いて討ち取った。(戦況は通説によった)
- ③ 総大将を失った小弓軍は総崩れとなり、敗戦を見極めた里見勢は戦うことなく上総に撤収した。この戦いで義明軍は弟基頼、嫡子義純以下1,000人が討ち死に、義明の首級は古河に送られたとされ、小弓公方は滅亡した。
 - (1)義明の2男頼純は里見方に養われ、小田原攻略後孫の島子が豊臣秀吉の側室となる。名門「鎌倉公方=古河公方家」の没落を惜しんだ秀吉は、島子の弟頼氏と古河公方の女主人「鴻巣御所」を結婚させ「喜連川家」として復活させた。喜連川家は江戸時代大名に準じた高家として明治維新に続いた。
 - (2)本会ではこの戦いに関係した小田原城は平成8年ほか、小弓城を14年、喜連川陣屋を15年、岡本、館山など里見氏の城は17年に見学している

4) 後の戦いでも北条氏康が里見を下す —— 第2次国府台合戦

- ① 永禄7年(1564)小田原北条氏康と里見義弘の戦い
- ② 義明の後、上総と安房を領有した義弘は越後の上杉謙信の要請に応え、岩槻の太田資正とともに兵8,000を国府台に集結、対する氏康は再び2万の兵を進めた。
- ③ この戦いもはじめ里見方が優勢であったが、油断した隙に夜襲をかけられて大敗、北条軍は追撃、里見は上総領の半分を失うことになる。
 - (1)北条方先陣の江戸城代・遠山直景と葛西の富永三郎右衛門尉は、氏康の到着を待たず江戸川を渡るが、矢切大坂上に迎え打った里見軍に大敗した。
 - (2)氏康は作戦を変え、夜陰にまぎれて国府台の前後から川を渡り、はさみ打ちに急襲、不意をつかれた里見軍はあわてふためいて敗走した。
 - (3)1月8日払暁、北条軍は寝込みを襲い里見の陣地めがけて一斉に攻撃をかけたのです。トキの声に驚いた里見軍は、あるいは鎧、太刀よ、鞍おけと叫び、また太刀一振、鎧1領に2、3人取り付きて我よ人よとせり合い兜ばかりで出づるもあり、鎧着て空手で出づるものありという狼狽ぶりを呈しました。この合戦の敗北で里見広次、正木内膳らをはじめ戦死するもの5,000名と伝えております。(戦況は通説、(3)は史跡看板によった)

5) 江戸川河岸段丘の要害 —— 「国府台城」を歩く

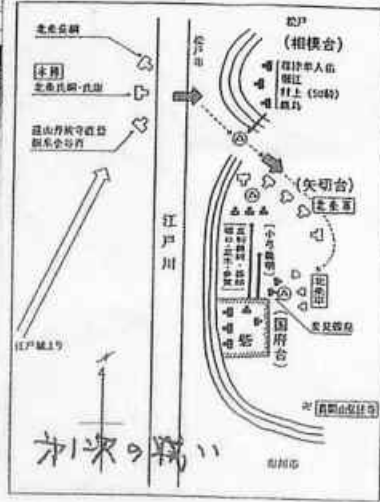
- ① 国府台城の築城は通説で「太田道灌が陣城を構築し、後北条氏が本格的な城とした」とする。しかし昭和戦中まで軍用地とされたので改変された可能性が高い。
 - (1)現存する土塁、空堀がすべて当時の遺構かどうか、本格的な学術調査が必要だろう
 - (2)平城、3郭?からなる梯郭式縄張り?、旧利根川河岸段丘を背負う「後ろ堅固の城」
 - (1)単郭の2重土塁と考えられなくもない
 - (3)公園入り口付近の高まりは土塁?、続くやや低地は3の丸?(3郭)
 - (4)羅漢の井戸=城兵の飲料水。少し降りた川近くの低地にある。
 - (1)史跡看板=この絵は天保5年に完成した「江戸名所図会」に描かれたものです。絵は浮世絵師・長谷川雪旦、雪堤父子が描いた実に詳細を究めたもので、当時の情景を知る上で実に貴重な資料となっています(タイトル=総寧寺羅漢の井戸)
 - (2)江戸川と対岸を観察、利根川は江戸時代2度の流路改変で現在の流れに
- ⑤ 主郭の高台、2の丸(2郭)土塁
- ⑥ 本丸(1郭)土塁、伝物見の櫓台=本丸周囲を回る。物見台が置かれたのだろうか
- ⑦ 本丸跡=江戸川岸壁の立地に注目。高地を建物部分、低地を庭地とする説もある。
 - (1)鐘が淵伝説=敗走する里見勢は混乱して深淵に陣鐘を落とす
- ⑧ 明戸古墳石棺=6世紀後期の前方後円墳、全長40m。2基の石棺は板石を組み合わせた箱式で蓋は「夜泣き石」の台座に転用された。石は筑波山産で江戸川で運ばれた。
 - (1)古代豪族の墓が城の土塁に利用されたことがわかる
- ⑨ 2の丸(2郭)土塁をまわる
- ⑩ 総寧寺=旧3の丸の一部に江戸中期寛文3年閑宿から移転。朱印183石、10万石格の格式、巨大な閑宿城主小笠原政信の夫妻の五輪塔など。
- ⑪ 第2次合戦「里見広次ならびに里見軍将士亡霊の碑」(史跡看板要旨は前出)
 - 左=里見諸士群亡塚、中=里見諸将群霊墓、右=里見広次公廟
 - (1)戦死者は義弘弟の子広次以下5,000人とされる
 - (2)夜泣き石=戦死した広次の娘がこの石に顔を伏せ、昼夜となく泣き続けそのまま息絶えた。以来夜になるとこの石から泣き声が聞こえるようになった
 - (3)諸士群亡塚、諸将群霊墓は文政7年銘、討ち死に後265年後建立

6) 路線バスで国府台の戦いの激戦地・下矢切へ移動 —— 矢切の渡しで柴又へ渡る

- ① 国立病院から松戸行きバス乗車190円。6つめ下矢切下車
 - (1)時刻表=13、14時とも、00、06、12、18分……(6分間隔)
 - (2)乗り切れない場合、後ろの人は次のバスに乗車してください
- ② 矢切、野菊の墓文学碑、矢切の渡しは保科さんが担当します
 - (1)悪天候で矢切の渡しが欠航の場合は「北総線」で1駅「新柴又」へ移動します



← 国府台城跡



足利義明の討ち死



国府台城の図

→ らかんの井



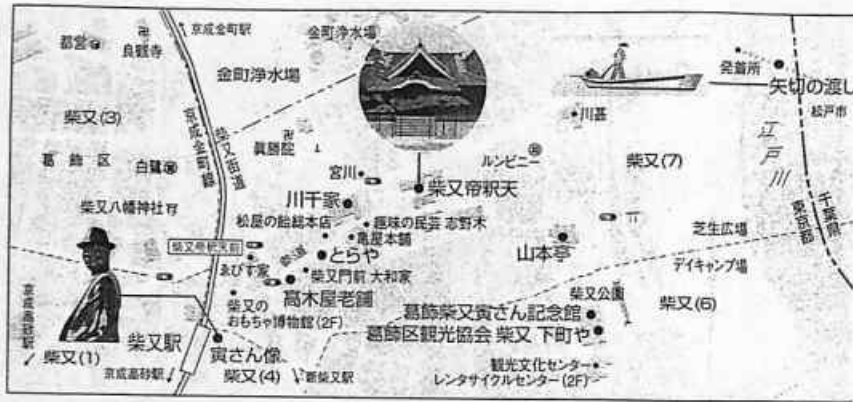
江戸川(旧利根川)



明戸右墳石棺



北条氏綱



庭園や彫刻も必見!

遼溪園(すいけいえん)
造園師・永井兼山翁が造った庭園。東京都指定歴史的建造物「大客殿」の建物内と渡り廊下から眺望する。

彫刻ギャラリー
帝釈堂内陣外側の彫刻が鑑賞できるガラス張りのギャラリー。巨大なケヤキに法華経の図像が彫られている。

彫刻ギャラリー

帝釈堂内陣外側の彫刻が鑑賞できるガラス張りのギャラリー。巨大なケヤキに法華経の図像が彫られている。

柴又

「城を歩く会」15周年記念誌 原稿募集中です

8月6日(木曜)の「15周年記念の会」に発行します。
原稿締め切りは4月末日、全員参加でみんなの「15周年誌」にしましょう。

細川たかし「矢切の渡し」、葛飾柴又「寅さん」

撮影スタジオ「柴又帝釈天参道」

帝釈天参道界隈の一日の動きを光と音で再現

フロア「男はつらいよの世界」

監督をはじめスタッフの仕事パネルを紹介

撮影スタジオ「くるまや」

撮影に使用しただんご屋「くるまや」のセットを、大船撮影所から移設。お茶の間のスクリーンでは名場面も

記念撮影コーナー

寅さんと一緒に、合成の記念写真が撮れる

町並み模型「わたくし生まれも育ちも寅さんです」

昭和30年代の帝釈天参道の街並みを、縮小サイズで再現

資料展示「寅さんの人生」

衣装、トランクなどの実物小物、台本などを展示

5 やざりわた 矢切の渡し

同名の演歌でもおなじみ都内で唯一残る手こぎの渡し船。帝釈天の裏手から江戸川を挟み、松戸市下矢切を結ぶ。約150mを渡る約5分間の船旅。下船後はどうやって帰るの?

柴又側から
往復できるので、そのまま柴又の乗り場へ。

松戸側から
遊歩道があるので、JR松戸駅まで散歩しよう。

ちょっと休憩 山本亭

記念館の裏にある茶屋。米国日本庭園誌が選ぶ日本庭園ランキングで3年連続第3位に選ばれた。

寅さんメモ

「帝釈天で産湯を使い」という寅さんの口上で登場する産湯は、この御神水を使ったとされている。

寅さんメモ

1 **柴又駅**
寅さんゆかりの地を巡る旅は、まずは柴又駅からスタート。改札を出ると寅さんが立っている!

2 **参道グルメ**
駅と帝釈天参道の間に立つ石碑

3 **柴又帝釈天 (龍経寺)**
映画の口上で有名な寅さんの代表する古刹。帝釈天本尊を祀ることから、帝釈天の名で親しまれている。

4 **葛飾柴又 寅さん記念館**
「男はつらいよ」の世界を再現した記念館。撮影のセットや映像など見どころ満載。

5 **川千家**
川魚料理の老舗。焼きと蒸しを繰り返して作る、うな重は2100円。

6 **高木屋老舗**
ヨモギが香る草だんご300円〜。筑波山麓産の生ヨモギ、コシヒカリ、十勝産のアズキを使用。

7) 「寅さん記念館」前で一応の解散 —— 有志で団体入場、山本亭もめぐる

- 「寅さん記念館」前で一応の解散 —— 有志で団体入場、山本亭もめぐる
- 「男はつらいよ」の主人公、みんなに親しまれた「寅さん」の記念館。寅さん映画は昭和44年に始まり、平成8年主役・渥美清さんの逝去で完結した。「わたくし生まれも育ちも葛飾柴又です。帝釈天でウブ湯をつかい、姓はクルマ名は寅次郎、人呼んでフーテンの寅と申します」懐かしいフレーズが流れます。
 - 帝釈天参道、くるまやセット、思い出シーン、寅さん遺品などなどを展示
 - 山本亭共通団体入場料450円(シルバーは個人でも同額です)
 - 本会では平成10年に「寅さん記念館」を見学、今回は2回目です。リニューアルされ展示内容も変わりました
- 米国の庭園専門誌が選んだ全国第3位の「山本亭」—— ここで本解散元カメラ部品経営者・山本栄之助氏の大正時代の旧邸。書院造りだが、その後の増改築で和洋折衷に。1階400㎡、2階50㎡、木造瓦葺きの室内は希望者だけ。
 - 一休みしたい方は亭内へどうぞ。500円で茶菓の接待があります
- 後は自由行動 —— 帝釈天と参道、名物「草だんご」のおみやげをどうぞ。
- 帝釈天=日蓮宗、正式には「経栄山題経寺」といい「帝釈天」はご本尊のこと。釈迦堂は江戸期、ほかは明治以降の建物。二天門、大鐘楼、帝釈堂の彫刻は名作が多く別名「彫刻の寺」とも。
 - 二天門=帝釈天のシンボルで最大の傑作。明治39年建造。2階造り楼門。入母屋屋根、両軒唐破風、両袖に増長天、広目天。組物は三て先、門扉、壁面、梁、木鼻などの彫刻に注目、天女、獅子、龍、猿、中国の故事などを刻む
 - 大鐘楼=昭和30年建造。新しいが関東1ともいう。袴付き、四手先升組、全面の彫刻
- みやげもの参道
柴又駅までのおよそ300mにみやげもの屋と飲食店がならぶ
 - 「柴又名物」は草だんごとくずもち、あめ、手焼きせんべい
「寅さん映画」の「くるまやロケ」ゆかりのダンゴ屋は「高木屋」です
- 帰りの電車は柴又から1駅「京成高砂」で京成本線乗り換えが便利です。帝釈天前から京成バス「小岩」行きもあります。